

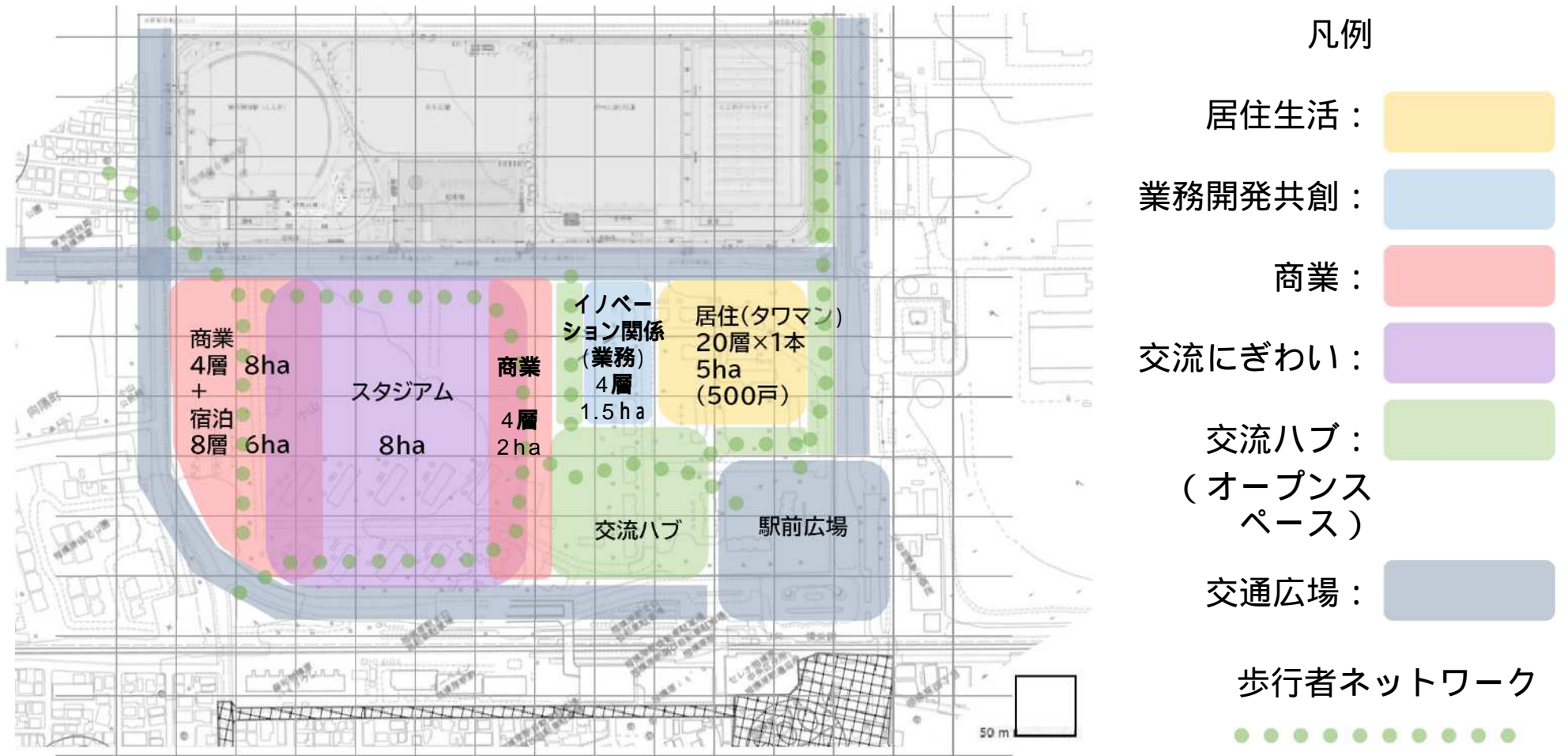
ケースのパターン図

○図示にあたっての想定について

- ・ 大まかな用途配置を示したパターン図です。
- ・ 外周道路と駅前広場はすべてのケースで共通です。駅舎、鉄道に近いところに大規模（高層）な用途を配置することを基本としています。
- ・ 区画道路は用途の境界に基本的に配置するほか、敷地規模に応じて、適宜、配置する想定です。
- ・ 歩行者動線は、交流ハブを介して、スポーツレクリエーションゾーン等の隣接地へ連絡する想定です。
- ・ 交流ハブは、図中は公園・広場等からなるオープンスペースを想定しています。施設形態のものは、他の用途に複合されるイメージです。
- ・ 交流ハブは、グリーンインフラの一部として、資料1「参考：全面返還を見据えた道路ネットワーク、グリーンインフラの配置イメージ」を踏まえ、配置しています。

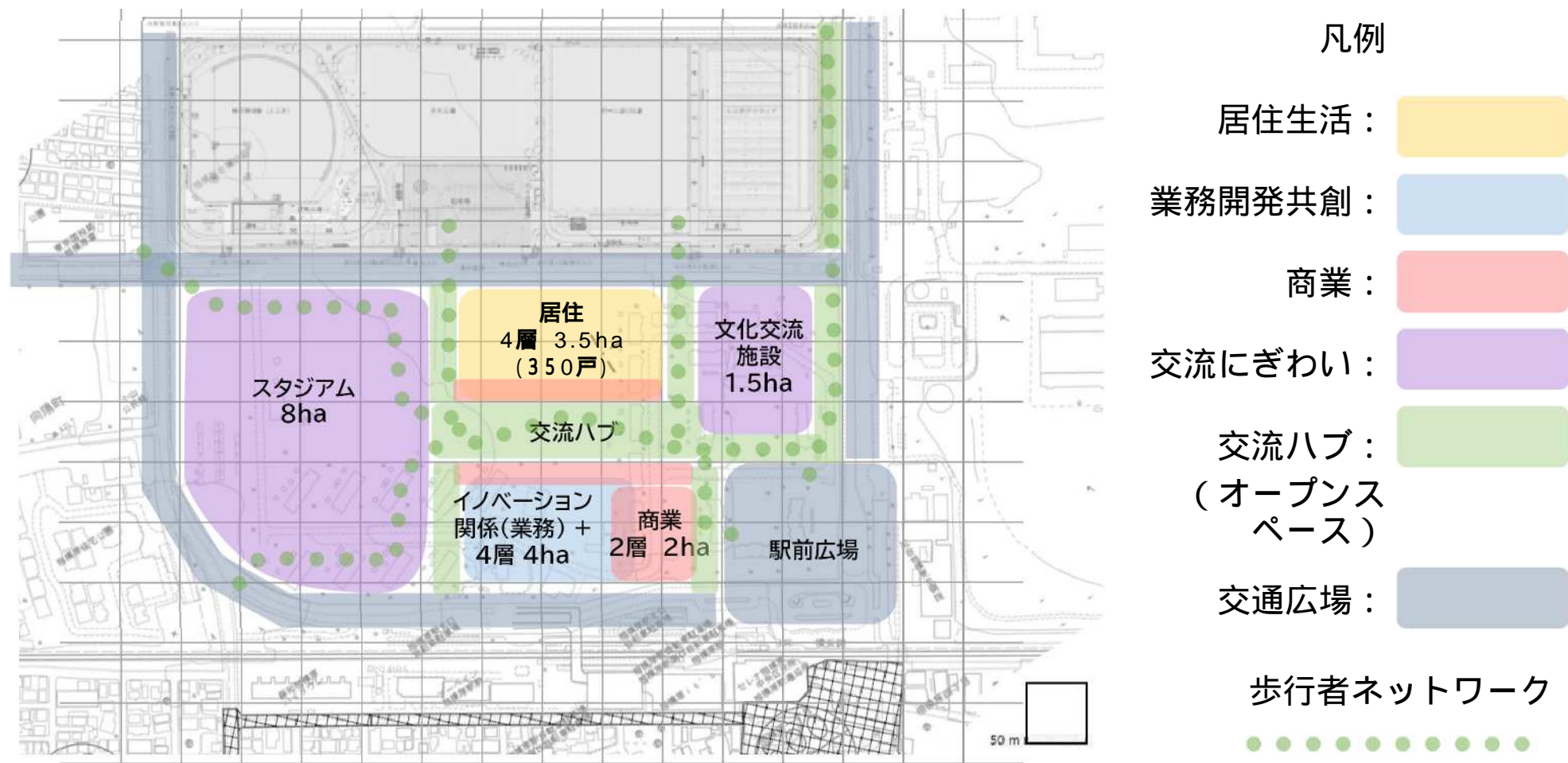
図中のメッシュは、50m×50mです

スタジアム・商業を核とした高層高密度・交流重視ケース（スタジアムあり） 通し番号：1



特徴

- スタジアムを地区のおおむね中央に配置し、商業、宿泊とを複合化。
- スタジアムと商業を複合することによる、日常的な賑わいづくり。
- 駅前の利便性を活かした高層住宅やオフィスの配置。
スタジアムのイメージは、「参考資料 施設イメージの事例」参照



凡例

居住生活：

業務開発共創：

商業：

交流にぎわい：

交流ハブ：
(オープンスペース)

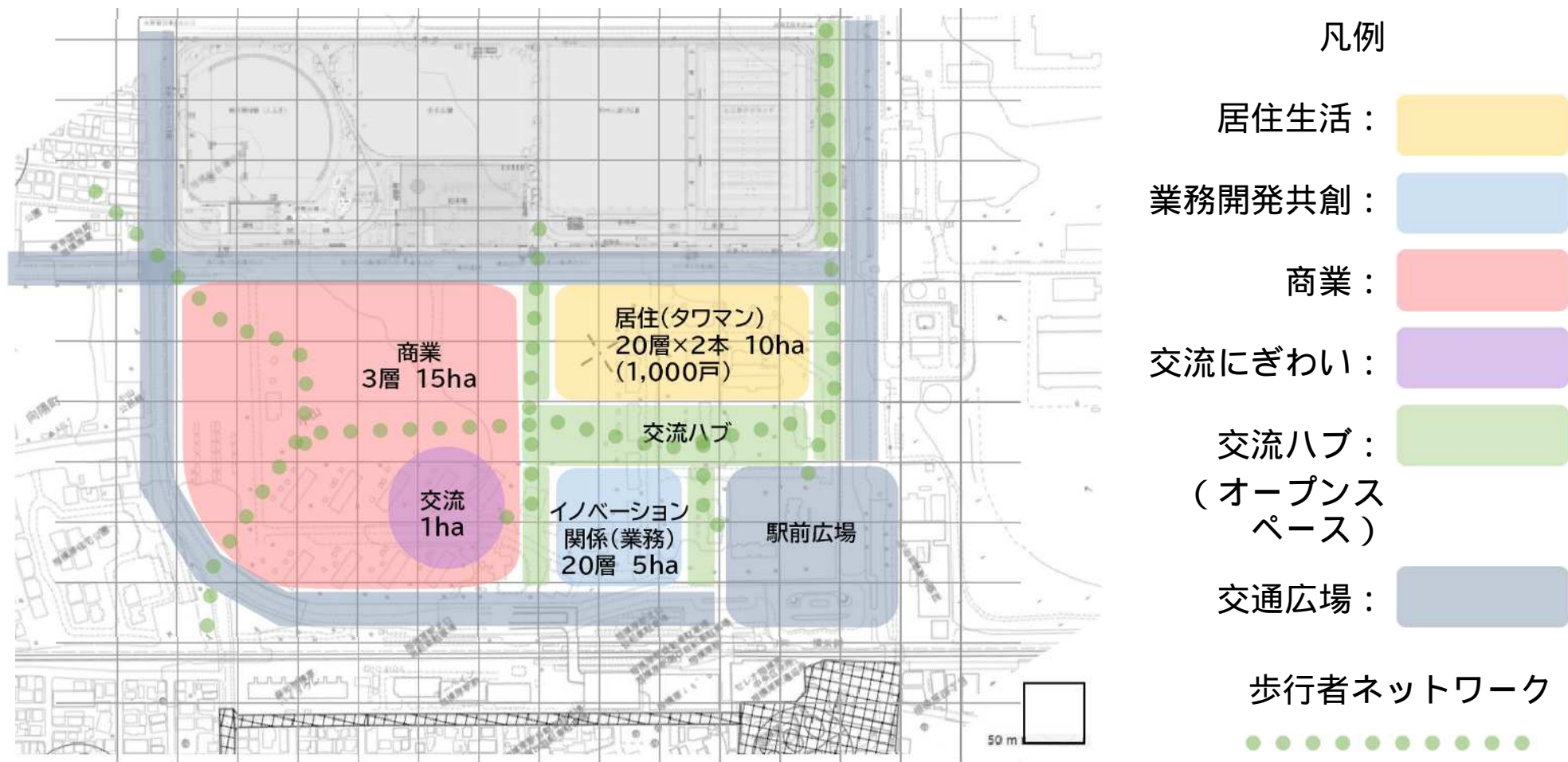
交通広場：

歩行者ネットワーク



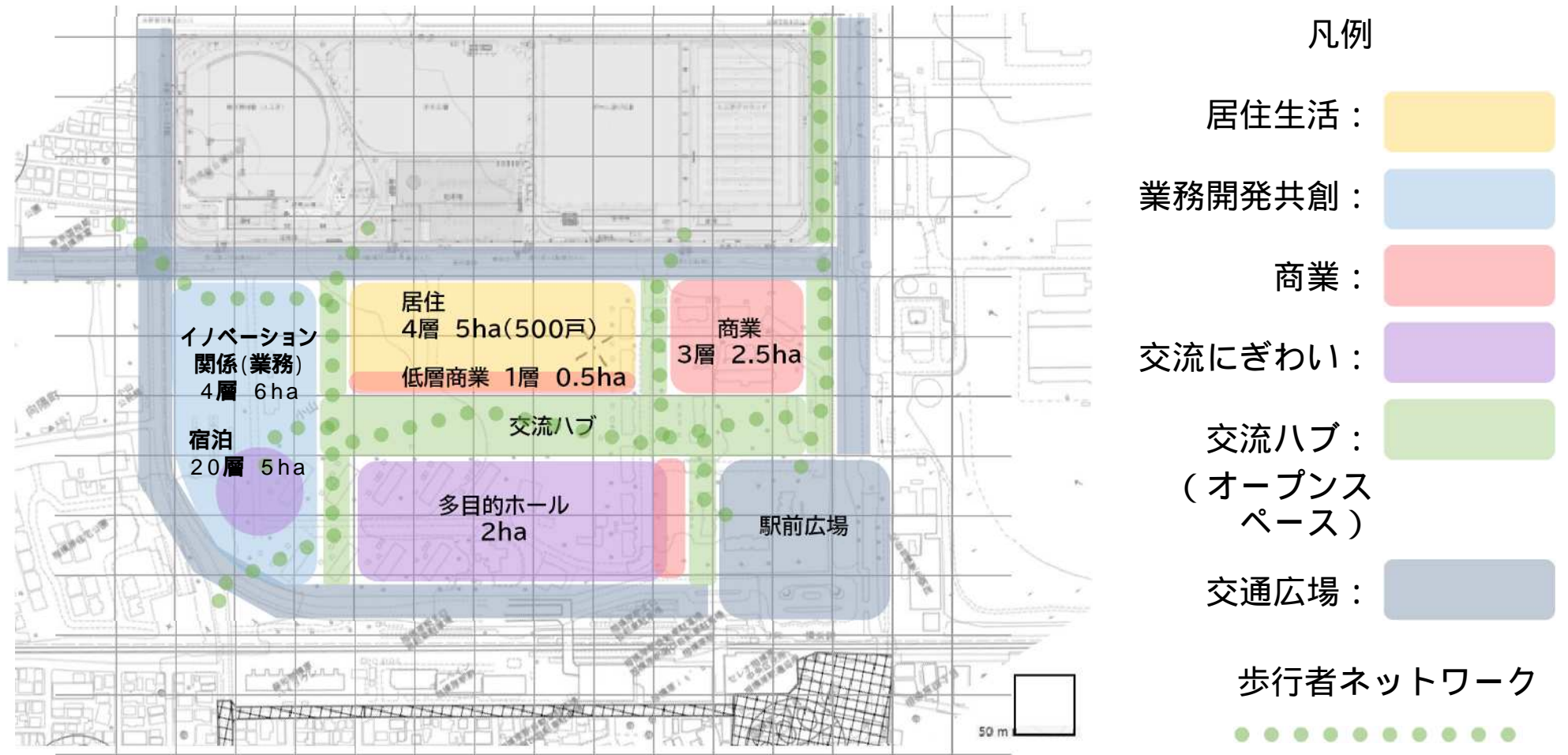
特徴

- スタジアムや文化交流施設による広域から近隣まで多様な交流を創出。
- 交流ハブ沿いに中層住宅、オフィスを配置し、低層階に商業を複合。
- スタジアムと文化交流施設とを交流ハブを軸としたモールで連絡。
スタジアム、文化交流施設のイメージは、「参考資料 施設イメージの事例」参照



特徴

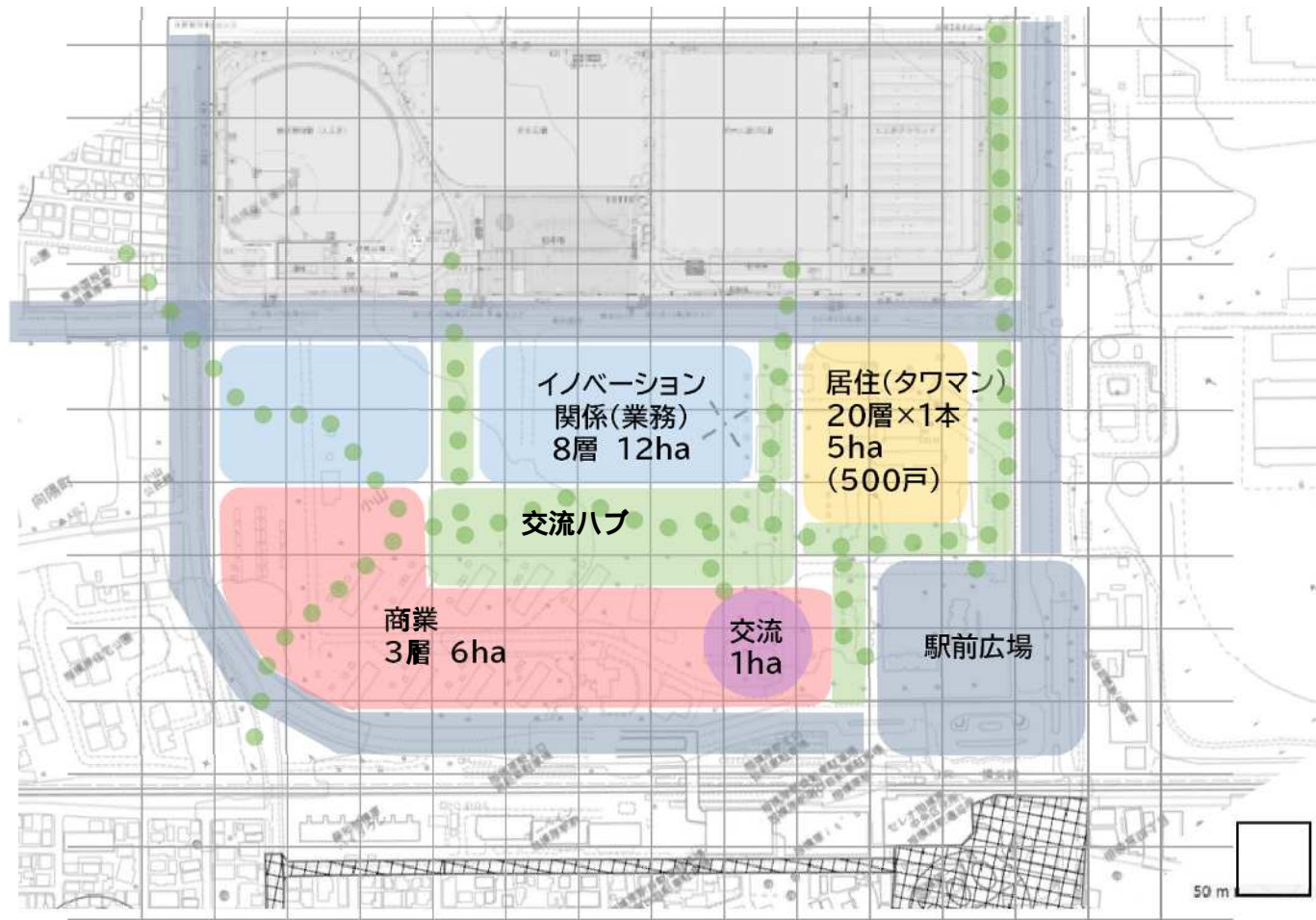
- 大規模商業を配置し、広域的な賑わいの創出。
- 大規模商業へのエンタメ、レクリエーションなど多様な交流機能の複合化
- 駅前の利便性を活かした高層住宅やオフィスの配置。



特徴

- 多目的ホールや宿泊によるコンベンション機能とオフィスを一体的に配置。
- イノベーションにつながる、産学・ビジネス交流の機会・場づくり。
- 駅前の商業機能と、多目的ホールやオフィスとを、低層階の商業と一体となった交流ハブにより連絡。

多目的ホールのイメージは、「参考資料 施設イメージの事例」参照

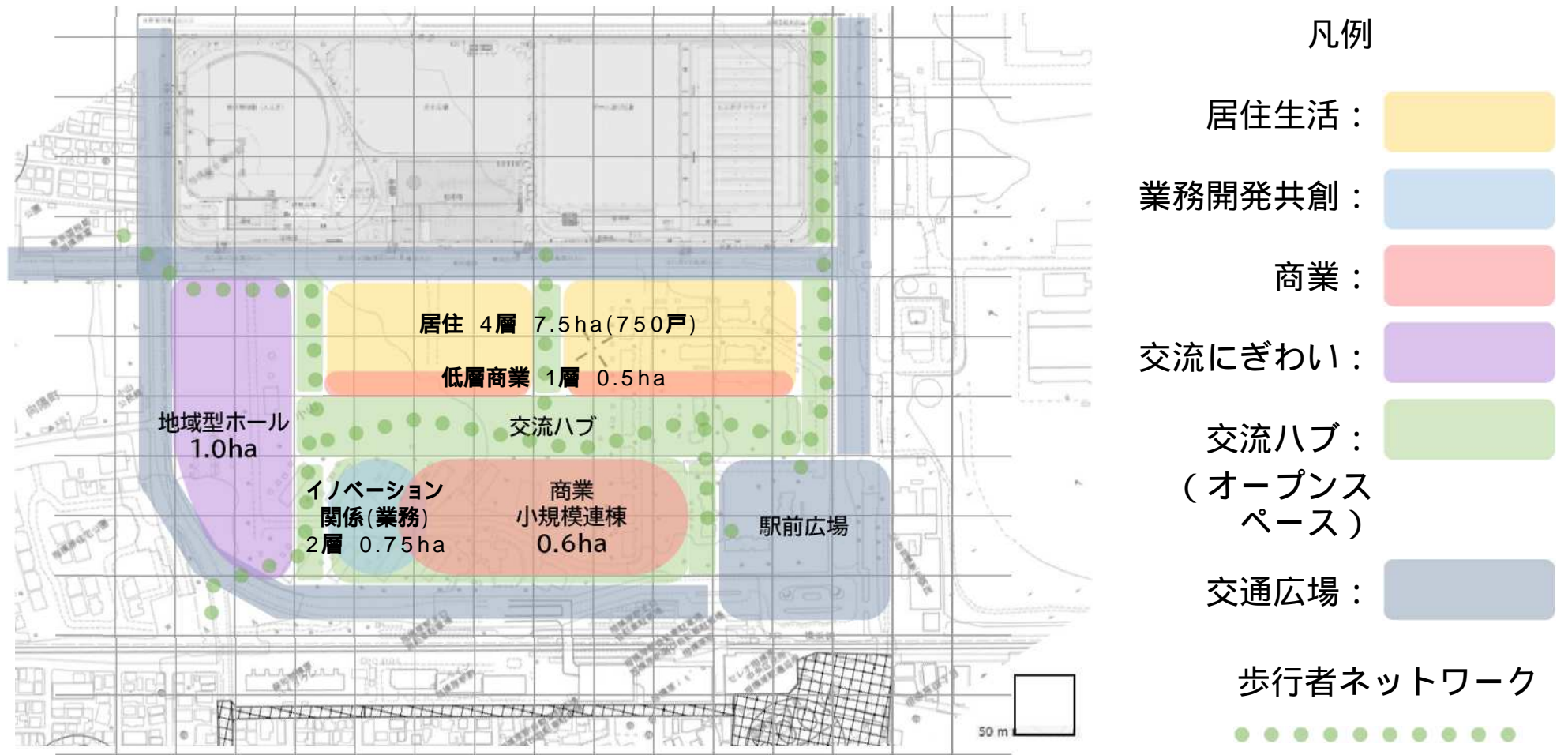


凡例

- 居住生活：
- 業務開発共創：
- 商業：
- 交流にぎわい：
- 交流ハブ：
(オープンスペース)
- 交通広場：
- 歩行者ネットワーク

特徴

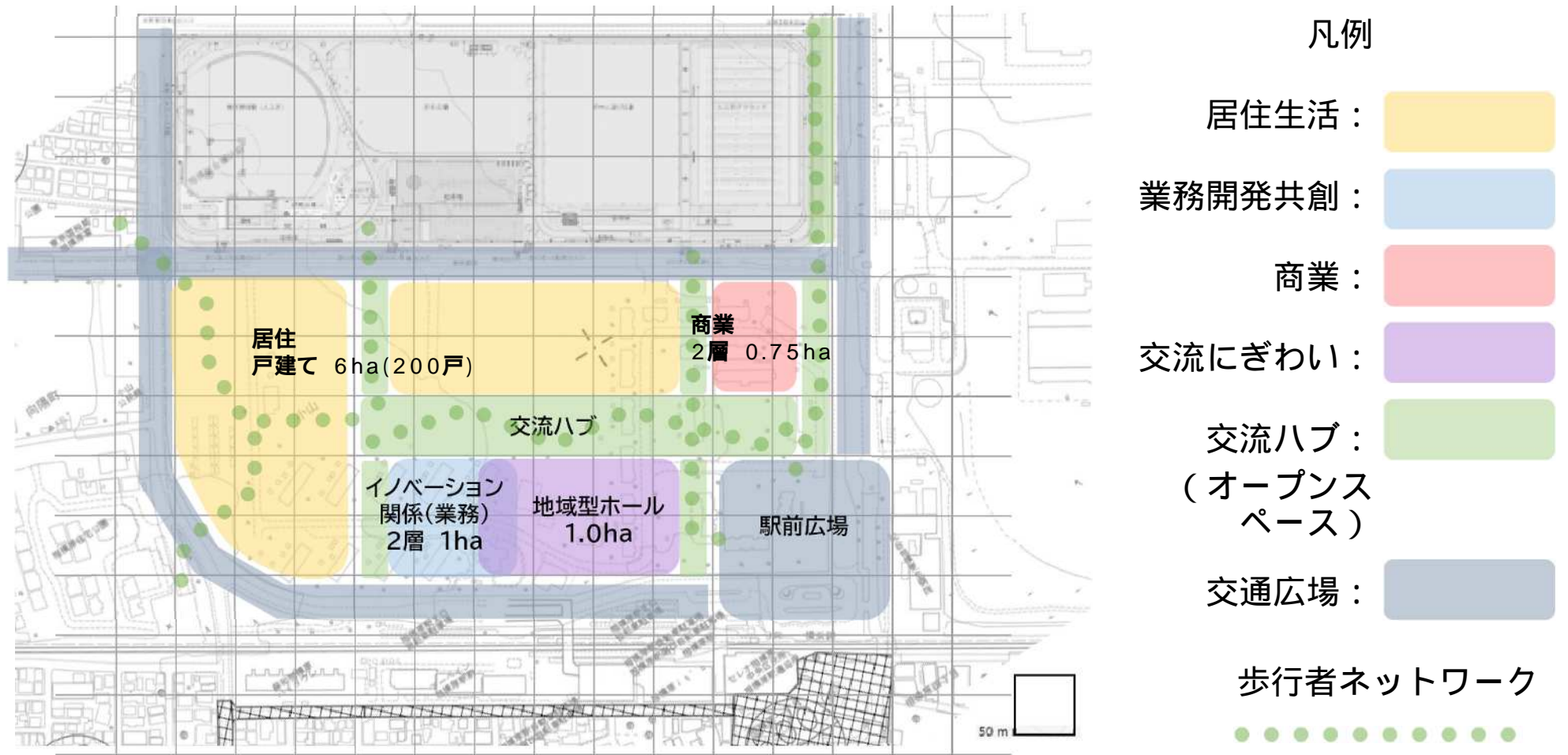
- 研究開発、インキュベーション等の開発共創に資するオフィスを配置。
- 駅前の利便性を活かした高層住宅や、交流機能を複合した大規模商業を配置。
- 交流ハブを介して機能相互をつなぎ、職住近接の環境づくり。



特徴

- 中層住宅をメインに、地域型ホールや、商業、コワーキングスペース等を組み込んだオフィスを設置。
- 商業、オフィスは、小規模連棟型とするなど、交流ハブと一体的に展開。賑わい・活気がみえる住環境づくり。

地域型ホールのイメージは、「参考資料 施設イメージの事例」参照



特徴

- 戸建て住宅をメインに、駅前商業、地域型ホールやコワーキングスペース等を組み込んだオフィスを配置。
- 交流ハブを介して機能相互を連絡。地域活動、生活・就業サービスの利便性の高い住環境づくり。

地域型ホールのイメージは、「参考資料 施設イメージの事例」参照